



しち り わたし あと
七里の渡跡



DATA・BOARD 47



- ① 三重県桑名市船馬町
- ③ 広場、白壁風防潮堤
- ④ アルミ瓦
- ⑤ 花火大会、石取祭、桑名の殿様御台所祭等のイベント会場としても使用

七里の渡は、東海道五十三次の要衝として鉄道や道路が整備されるまで桑名の玄関口として重要な役割を果たしていた。しかし、伊勢湾台風による高潮被害を契機に防潮堤に囲まれ、陸側からは面影すら偲ぶことができなくなっていた。

桑名市では住民意識の高揚を背景に、周辺地域を歴史・文化ゾーンとして位置づけ、公園整備などを進めてきた。さらに桑名のシンボルの存在であった七里の渡を甦らせるため、建設省木曾川下流工事事務所の協力により防潮堤を地場産業である鋳物製品を活用したアルミ瓦などで白壁風に修景し、広場部分を拡張し揖斐川の流れを楽しめる憩いの場として整備を行った。さらに周辺の堤防は歩道として整備が進められており、イベントや祭りの会場としても利用されている。